

ヘリコプターの 騒音軽減で試験

地上被害最小へ航法研究

【大樹】独立行政法人航空宇宙技術研究所（NAL、本部東京）は6月、大樹町美成の町多目的航空公園で、多目的実証実験機のヘリコプター「MUPALe（ミューパル・イpsilon）」を使い、騒音軽減試験を行う。地上への騒音被害を最小にする航法の実用化を目指す。同機を使った大樹での試験は、2000年10月に続き2回目。今回は上空での飛行中（特に降下中）に機外の騒音を計測するなど、各種データを収集する。

（浅井文人）

大樹で 来月データ収集

NALによると、同試験はNALの飛行システム研究センターが主体となり実施。期間は6月9日から同26日までの18日間。実験機は同11日に同公園へ飛来する予定だ。実験機は三菱重工製



ヘリコプターの騒音軽減試験に使われる「MUPALe」（2000年10月、大樹町多目的航空公園で）

の母機に7億円をかけて開発。ヘリコプター特有の騒音被害を低減するため、進入経路の研究などに利用している。超音波を使い、超低速まで精度よく計測できる速度計など、最新の計測装置を搭載。同機は一般のヘリコプターに比べて飛行音も小さいのが特徴だ。

今回の試験では機外騒音の計測ほか、滑走路に設置したマイクの上を低高度で飛行する際の騒音を測定する試験も行う。

このほか、風などの気象観測用のデータを上空で取得。国の成層圏プラットフォーム計画に関連し、同公園内に整備された「VHFレーダー」が地上で計測したデータと比較し、相互検証する試験も行われる。